

研究情報の公開（オプトアウト）

① 研究課題名	高齢者入院患者の筋質低下は疾患特異的な変化によるものか	
② 実施予定期間	倫理委員会承認日 ～ 2026年 3月	
③ 対象患者・疾患等	65歳以上で「集まりの場」もしくは「東広島市いきいき健康フェア in 広島国際大学」で測定を終えた者	
④ 対象期間（組入れ期間）	2020年11月から2022年10月	
⑤ 学部	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	
⑥ 研究責任者	資格 理学療法士・助教	氏名 梅原 拓也
⑦ 研究全体についての概要	<p>我が国において、医療費の使用が一番高いのが循環器疾患であり、要支援・要介護の原因の中で最も高いのが、運動器疾患である。循環器疾患と運動器疾患のそれぞれでは、骨格筋量の低下のみで説明がつきにくい筋力低下が生じている。筋力低下の主な要因には、骨格筋量だけでなく筋質もある。つまり、筋力低下に伴う骨格筋量と筋質の低下も明らかにできれば、各疾患に由来する筋力低下に対する明確な運動療法の開発や発展に寄与する可能性が高い。しかし、これまでに循環器疾患と運動器疾患を含めて筋力低下に対する要因について検討した報告はない。さらに、健常高齢者については、フレイル、サルコペニアや骨量減少を有する高齢者は、骨格筋障害を伴うことが有名であるため、フレイル、サルコペニアや骨量減少に対してそれぞれの重症度の違いで筋質が悪化している可能性があるが、これまでにそれらを明らかにされていない。</p> <p>よって、本研究は、1) 健常高齢者を基準とし、高齢者入院患者（心不全患者と大腿骨近位部骨折）の筋質を含めた骨格筋に違いや特徴があるかについて明らかにしする、2) 健常高齢者については、フレイル、サルコペニアや骨量減少を有する高齢者は、骨格筋障害を伴うことが有名であるため、フレイル、サルコペニアや骨量減少に対してそれぞれの重症度の違いで筋質が悪化しているかについて明らかにすることを目的とした。</p>	
⑧ 研究実施場所	広島国際大学	
⑨ 個人情報保護について	連結可能匿名化	
⑩ 拒否について	参加は随時拒否・撤回ができます。拒否・撤回後はその方のデータを削除いたします。拒否される場合は、以下の問い合わせ先へ連絡をください。	
⑪ 利益相反	開示すべき利益相反なし	
⑫ 問い合わせ先	理学療法士 梅原 拓也	
⑬ 連絡先	電話番号：0823-70-4889	
	FAX 番号：	

公開先：本学 HP 総合リハビリテーション学部 学部トピックスに公開予定